

日遊協2012年ファンアンケート調査

遊技料金の多角化「賛成」が84% 非常に長くなったプレー時間

日遊協の「2012年パチンコ・パチスロファンアンケート調査(ホール来店客調査)」が、3月14日の第6回定例理事会での承認を受けて公表された。1回あたりの平均プレー時間の伸びが目立った。一方で、来店目的が「実益」より「時間消費」へと変化する傾向が続いている。貸玉・貸メダル価格の多様化について賛成派が8割以上に達した。日遊協は今回の調査結果を、パチンコ・パチスロ産業の健全な発展のための資料として活用していく。今回は全国34社124ホールで2,239人のお客様から有効回答をいただいた。調査にあたっては、日遊協会員ホールに加えて都遊協、九遊連各青年部の協力を得た。

アンケート調査実施要領

■ 調査目的と内容：

今後の業界発展に資することを目的に、ファンの特性、遊技実態、ニーズ等の調査、及びその動向変化を把握するための定点観測的調査。加えて、業界の様々な社会貢献活動・広報活動に対するファンの認識度や評価を分析し、今後のあるべき方向性を探った。

■ 実施時期： 2012年11月下旬～12月下旬

■ 調査対象： 全国の日遊協加盟企業が有するホールの来店客。加えて、都遊協、九遊連加盟ホールの協力も得た。

■ 協力企業・ホール数： 34社124ホール

■ 有効回答： 2,239サンプル

■ 回答者の基本属性：

回答者の平均年齢は41.6歳で過去の調査とほぼ同じ。男女比は男性66%、女性34%で、過去の調査に比べ若干男性比率が高いが、女性も各年代にまんべんなく存在している。職業別では「勤め人」が39%で最多。「パート・フリーター」18%、「自営・自由業」11%、「専業主婦」「無職(リタイア含む)」各10%、「学生」5%だった。

表1 パチンコかパチスロか 若い世代中心にパチスロ回帰

「パチンコだけ」の人33%、「主にパチンコ」の人12%、合わせて45%がパチンコ派。「パチスロだけ」の人9%、「主にパチスロ」の人18%、合わせて27%がパチスロ派。「両方同じくらい」の人が28%いた。パチスロ派はここ数年減少傾向だったが、前回調査から増加に転じた。平均年齢は、パチンコ派48.7歳、パチスロ派36.1歳で、男女とも若い年代ほどパチスロが多くなる傾向。全体にパチスロ回帰の傾向がうかがえる。

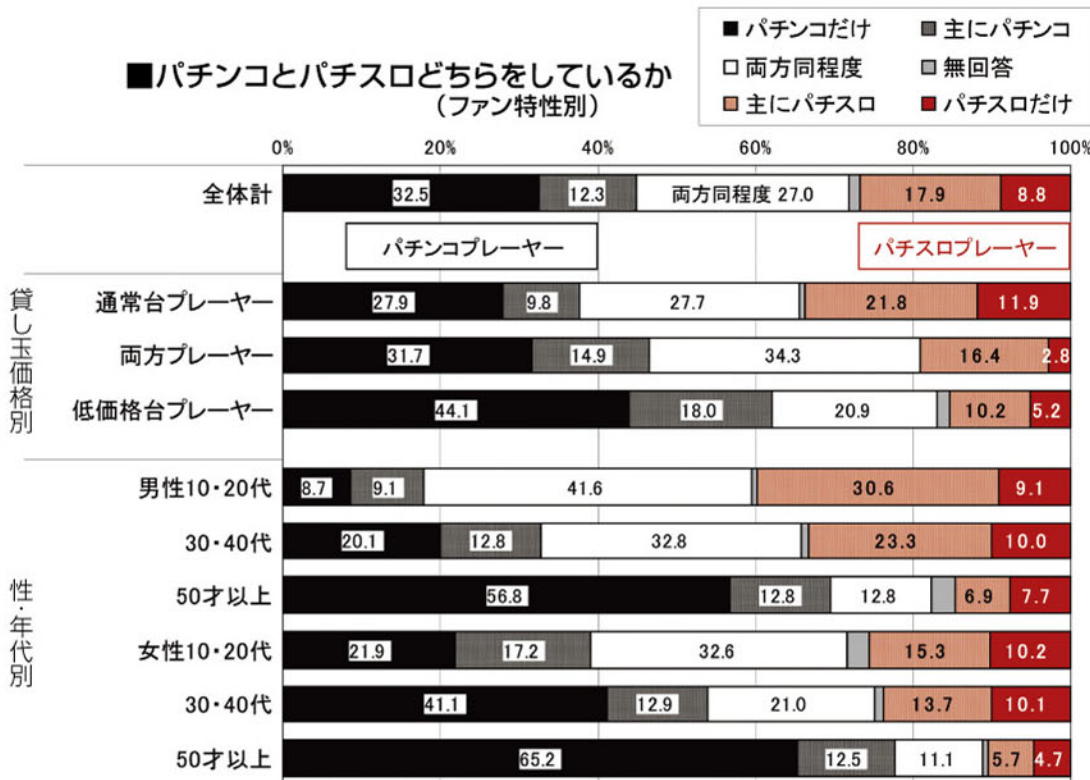


表2 ホールに行く目的 レジャー派が漸増傾向に

レジャー派(ストレス解消・暇つぶし等)は前回調査とほぼ同じ62%だが、過去6年間で見ると漸増傾向にある。実益重視派(小遣い・生活費稼ぎ)は前年より微減の20%だった。軸足をレジャー方向に置く人が遙かに多く、またそれが強まる傾向がうかがえ、業界の健全レジャー化の方針が浸透しつつあるといえる。一方で射幸性の要素が魅力の根源にあることも確かで、その要素を失わないようバランスある配慮(台の多様化等)が必要と思われる。

■ホールに行く目的の経年変化
(実益派は減り、レジャー派が増える傾向も)

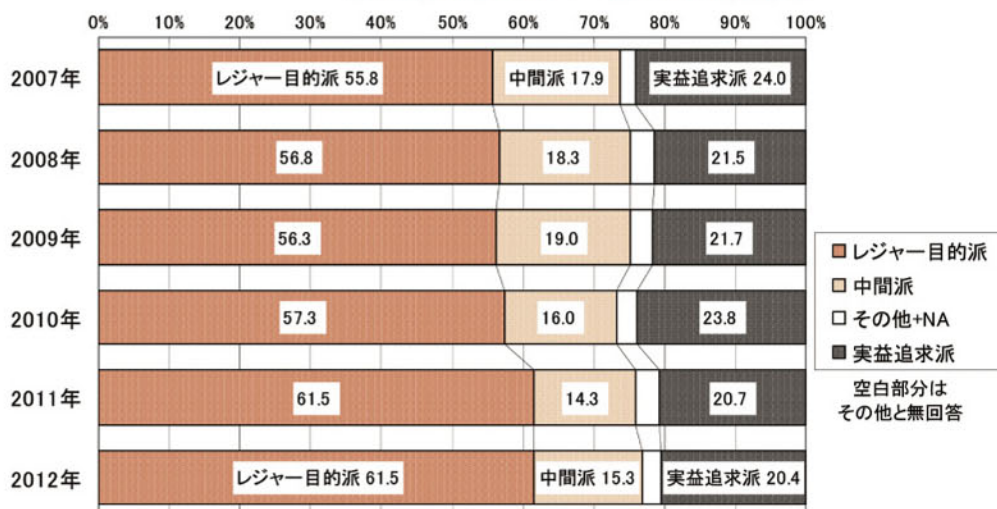


表3 自分にとってパチンコ・パチスロとは 53%が生活上の楽しみに

「一番の楽しみ」という人が16%、「大事な楽しみ」という人が37%。半分強の53%が生活上の楽しみと位置づけている。プレー歴の長い人、プレー金額の多い人、頻度の多い人ほどこの傾向が強い。残りの34%は「なくても困らないがあったほうが良い」とし、「なくてもまったく困らない」は12%だった。

■自分にとって「パチンコ・パチスロ」とはどういうものか (全体計)

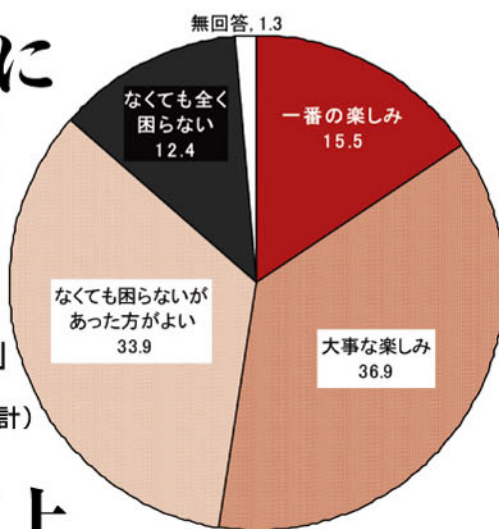


表4 来店頻度 8割前後の人が週1回以上

来店頻度は平均週2.7回(前回調査2.9回)で、低下傾向が続いている。「週2~3回」が24%(同25%)と最多。以下「週1回」23%(同21%)、「ほぼ毎日」17%(同18%)と続く。週1回以上来店する人が8割前後を占め、固定的なファンが多いといえる。高頻度の人は男女とも50歳以上の高齢層だが、全体に高頻度の人は減少傾向にある。

■ホールへの来店頻度の分布 (パチンコ・パチスロプレーヤー別)

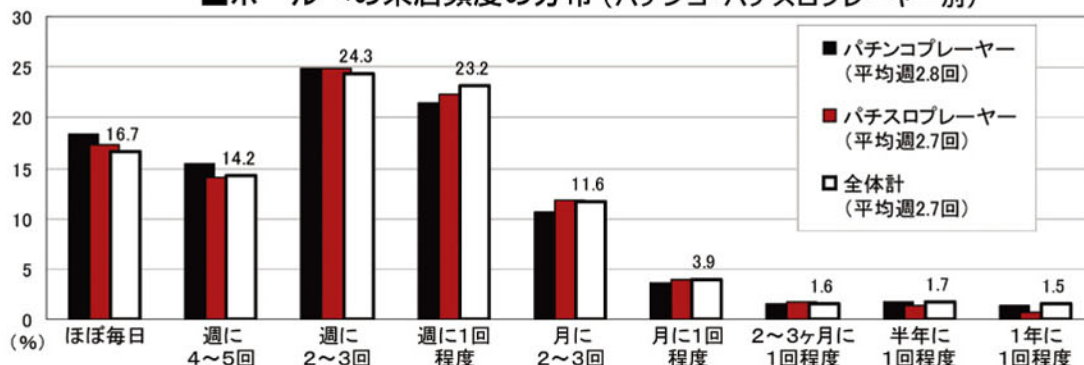


表5 プレー時間 5時間以上13%も増える

1回あたりのプレー時間は平均4.6時間(パチンコ4.3時間、パチスロ5時間)で、前回まで(平均4時間前後)より非常に長くなった。とくに「5時間以上」が前回の16%から29%へ大幅に増えた。

■「1回」当たりのプレー時間の分布の推移

| 調査年次 | | 30分程度 | 1時間位 | 2時間位 | 3時間位 | 4時間位 | 5時間位 | それ以上 | 無回答 | 平均 | 3時間まで | それ以上 |
|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|-----|-------|-------|-------|
| 過去調査 | 2007年 | 1.9 | 3.2 | 11.2 | 20.9 | 16.2 | 18.8 | 25.6 | 2.3 | 4.1時間 | 37.2% | 60.6% |
| | 2008年 | 2.4 | 5.0 | 14.2 | 20.3 | 17.2 | 18.5 | 20.7 | 1.6 | 3.9時間 | 41.9% | 56.4% |
| | 2009年 | 2.0 | 4.6 | 10.4 | 21.9 | 17.2 | 20.8 | 20.9 | 2.1 | 4.0時間 | 38.9% | 58.9% |
| | 2010年 | 1.2 | 2.8 | 12.7 | 17.2 | 23.8 | 19.4 | 20.9 | 2.1 | 4.1時間 | 33.9% | 64.1% |
| | 2011年 | 1.3 | 2.0 | 14.6 | 17.6 | 26.2 | 19.9 | 15.8 | 2.6 | 3.9時間 | 35.5% | 61.9% |
| 今回 | 2012年 | 1.0 | 1.9 | 7.9 | 25.8 | 17.1 | 16.2 | 28.8 | 1.3 | 4.6時間 | 36.6% | 62.1% |
| (累計) | | 2.9 | 10.8 | 36.6 | 53.7 | 69.9 | 98.7 | 100.0 | | | | |

新台導入への関心度

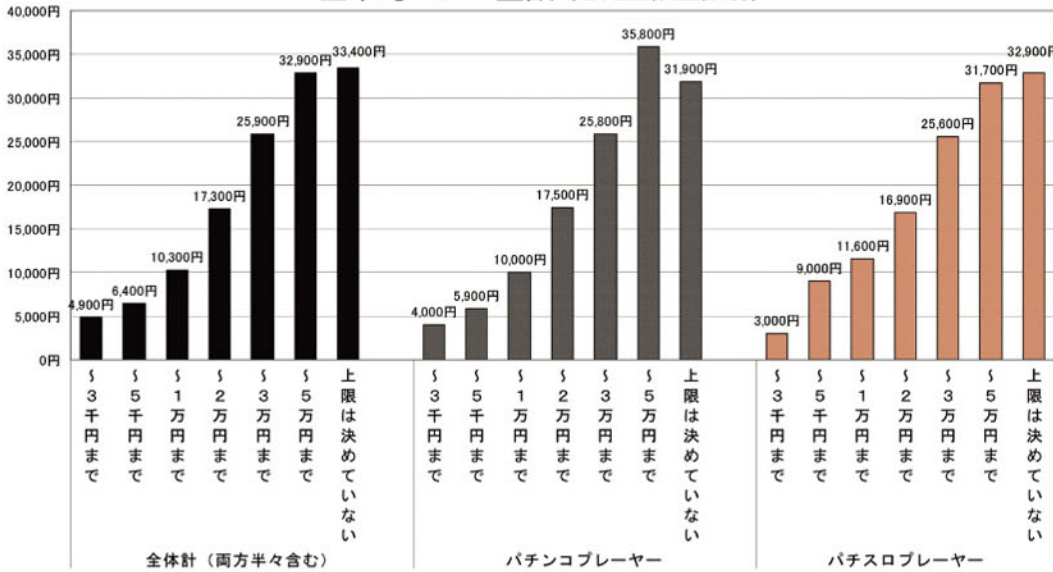
若い人には効果が高いが

導入間隔が「適当」と思う人が過半数の56%だが、「早すぎる」も38%いた。とくに中高年は総体的に「早すぎる」が増える。新台導入されたら「すぐにでも行きたくなる人」19%、「そのうち行ってみようと思う人」49%となっており、とくにマニア型の人及び若い人に新台導入効果は高いと思われる。

表6 プレー金額と収支

パチスロは想定額、投入額とも上昇傾向

■平均プレー金額（想定上限金額別）



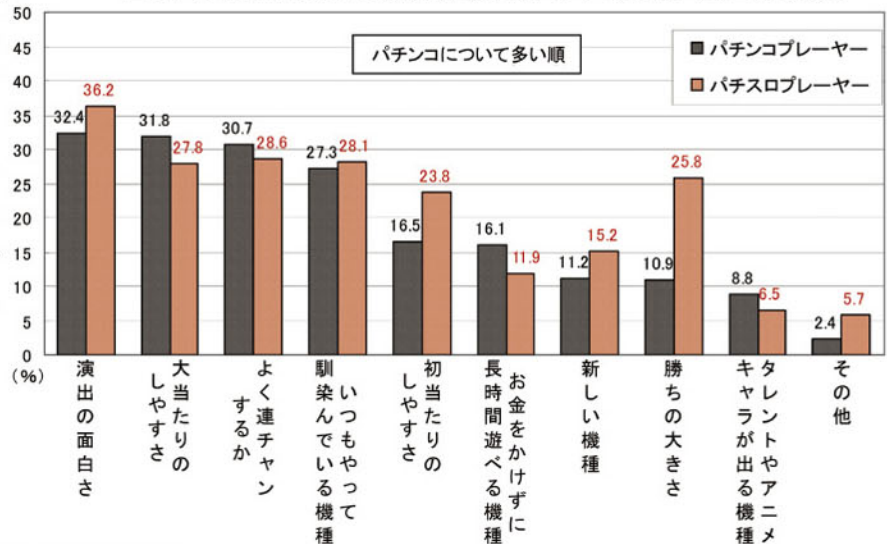
1回の上限と想定している額は平均1万7900円（パチンコ1万6400円、パチスロ2万4000円）で大きな変動はない。実際の投入額（1回）は平均2万2500円（パチンコ2万6000円、パチスロ2万4500円）で、上限想定額より2～3割高い。これは上限を決めない人が24%（パチンコで20%、パチスロで32%）いることが一因で、多くは想定額程度でプレーしている。ただ、パチスロプレイヤーは想定額、投入額とも08年以降上昇傾向にある。低価格台の場合、1回当たりの投入額が「1万円くらいまで」とする人がパチンコで77%、パチスロで66%いた。

表7 台を選ぶとき

10～40代は「演出」重視で

■「台を選ぶ際の重視度」のパチンコとパチスロの違い

パチンコ、パチスロ双方に共通して、「演出」「大当たり確率」「連チャン」「馴染んでいる機種」の4要素が重視されている。このうち「馴染んでいる機種」は低下気味だが、他の3要素はさらに高まっている。「演出」の重要度は10～40代に非常に高い。パチスロでは他に「勝ち額の大きさ」「初当たりのしやすさ」も重視されている。



依存症と社会貢献活動

依存問題への関心は半々

パチンコ依存症について、「強い関心がある」11%、「多少関心がある」34%で、計45%が一定の関心を持っていた。逆に「全く関心がない」21%、「あまり関心がない」32%で、計52%が関心のない人だった。関心のある人は、どちらかといえば投入金額は少ないが来店頻度は高く、年齢の高い人に多かった。パチンコ依存問題の相談機関、リハビリサポート・ネットワークについては6割近くがまだ知らなかった。

また、各種ボランティア活動や被災地への義援金など社会貢献活動については、6割近くが賛同したが、「まずはファンサービスに努めるべき」とする意見も少なくない。

表8 低価格台 63%が「十分楽しめる」

貸玉・メダル価格の多様化に対して「大賛成」が32%（前回21%）と大幅に増え、「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成派が84%に達した。低価格台のプレイヤーの63%が「十分楽しめる」と評価しており、若い人（とくに女性）、プレー歴の短い人、低頻度の人、投入金額の少ない人に多い。一方で「物足りなくて遊ぶ気がしない」人がパチンコで21%、パチスロで29%いる。

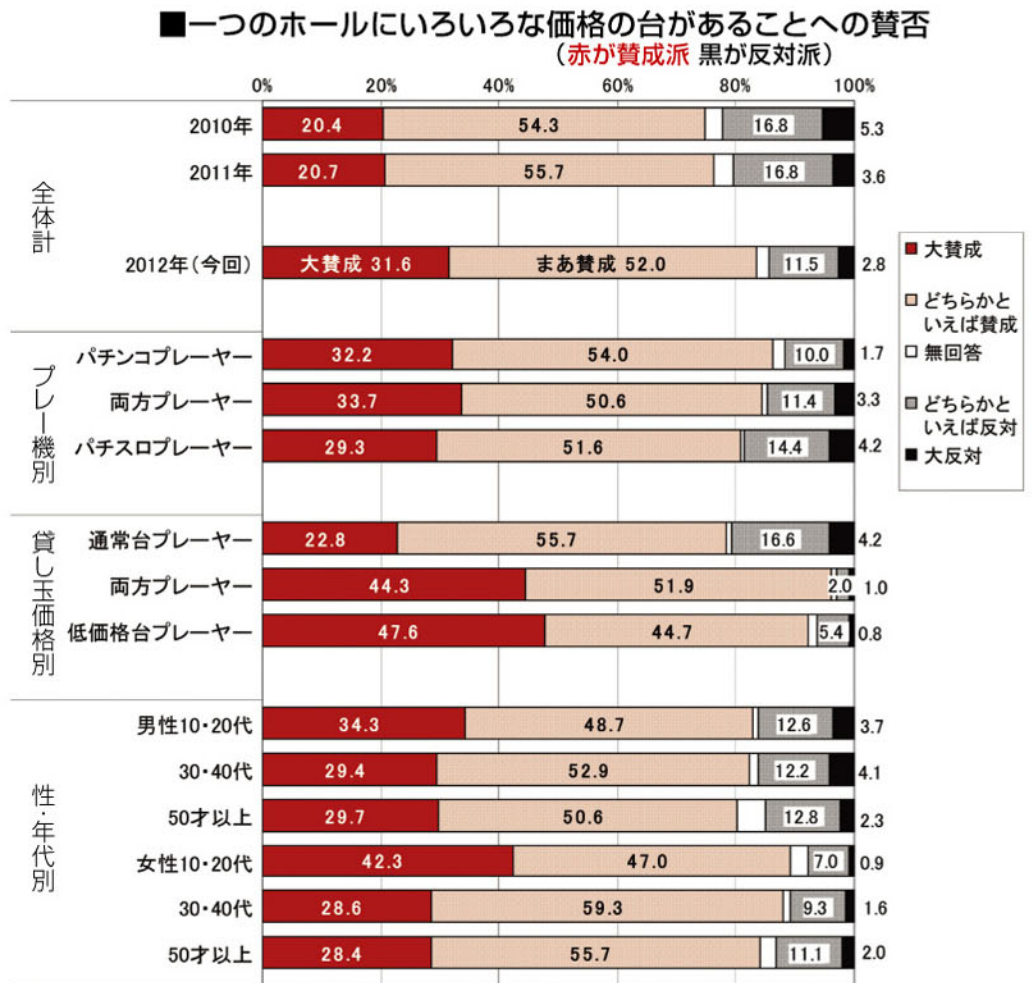
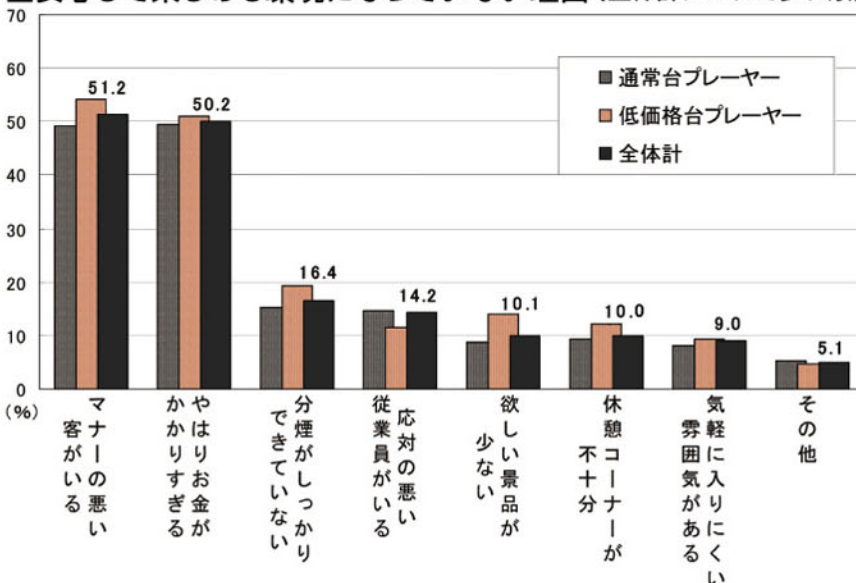


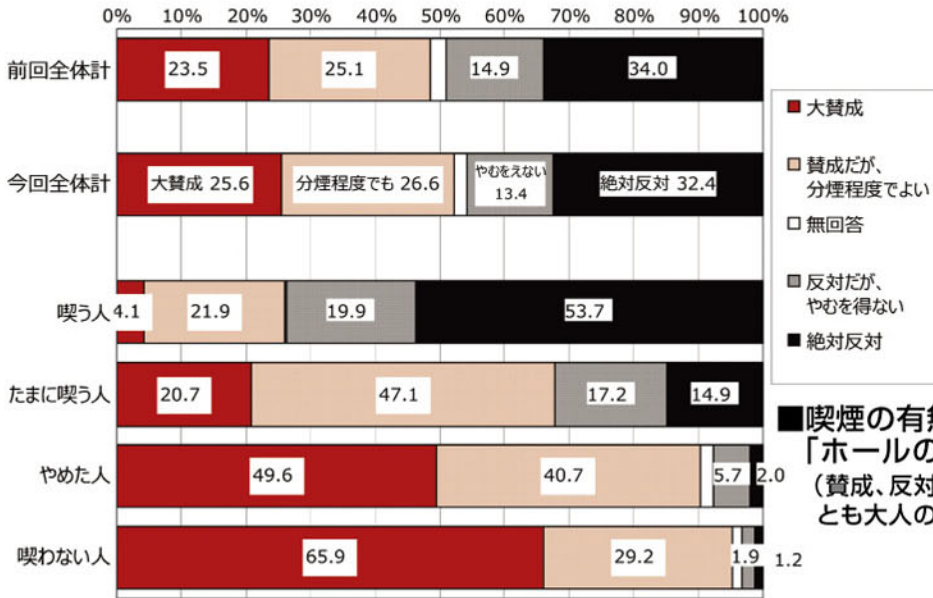
表9 ホールの健全化 「マナー」「金」で若者に不満

■安心して楽しめる環境になっていない理由 (全体計について多い順)



半数以上が「今のホールは安心して楽しめる状態」と回答したが、「まだ不十分」「どちらともいえない」を合わせた否定派が半数近くいる。不十分な点として「マナーの悪い客がいる」「金がかかりすぎる」が大きい。この2点に対する不満はとくに若者層に多く、これからファンになる人の要望と捉えておくことも必要だ。

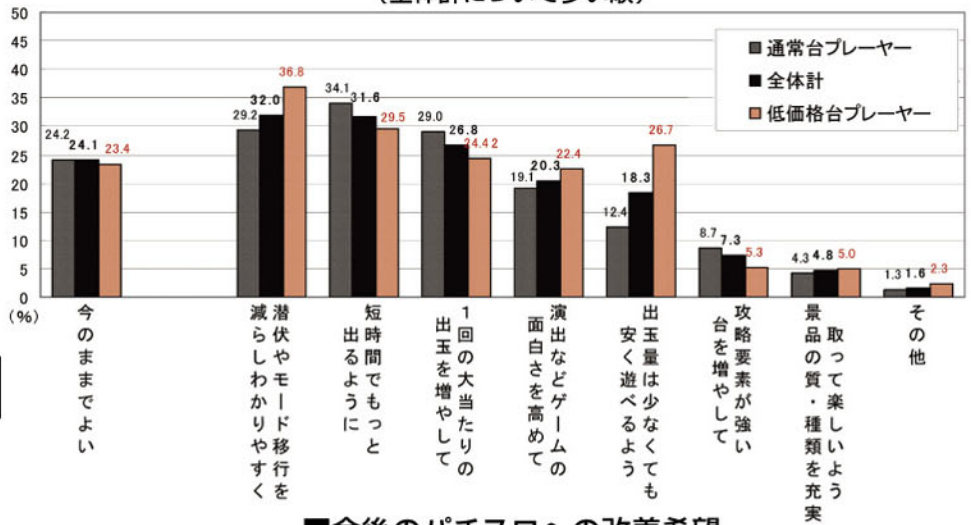
表10 喫煙状況と全面禁煙
喫煙率、一般の人の3倍



ファンの喫煙者率は62%（男性69%、女性48%）と過半数を占めた。JT調査による一般の喫煙者率21%（うち男性33%）に比較して格段に高い。ホールの全面禁煙化については、当然、喫煙者は反対、非喫煙者は賛成が多数を占めて拮抗していたが、若干賛成派が多かった。ただ、賛成派に「分煙でもいい」、反対派に「（全面禁煙も）やむをえない」と“大人の対応”的な意見も多かった。

喫煙の有無別
「ホールの全面禁煙化に対する賛否」
 （賛成、反対は拮抗しているが、喫煙者・非喫煙者とも大人の対応の人が少なくない）

今後のパチンコへの改善希望
 （全体計について多い順）



今後のパチスロへの改善希望
 （全体計について多い順）

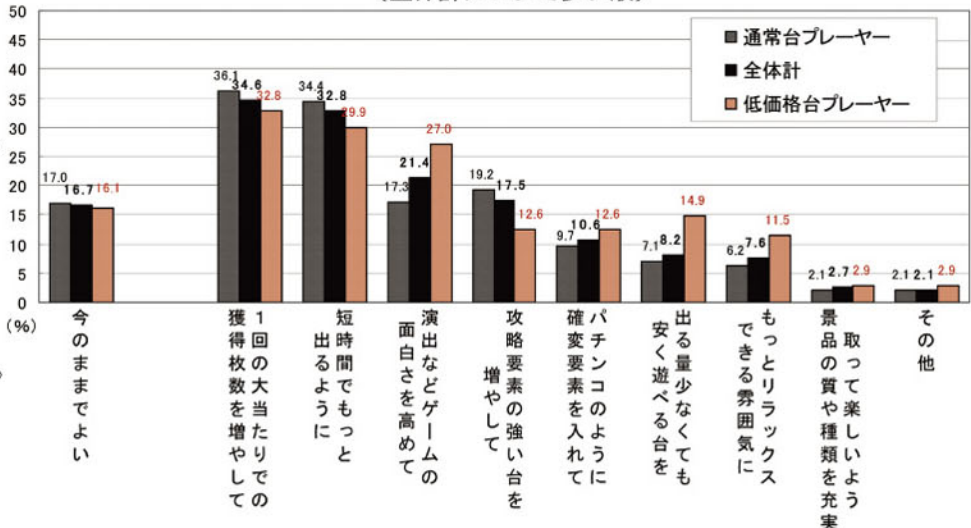


表11 表12
ファンの要望
「遊技の面白さ」への傾斜も

パチンコ、パチスロファンともに「短時間で、または1回の当たりで出る量を増やしてほしい」という要望が強い。また、パチンコでは「潜伏やモード移行を減らしてわかりやすく」との声や、パチンコ、パチスロ双方に「演出などゲームとしての面白さ」の要望が増えており、ファン心理が単に勝つことだけではない方向（レジャーとしての楽しさ）に傾斜しつつあるように思われる。